

令和7年度 江戸川区立篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子 ○心豊かな子 ○しょうぶな子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○確かな学力をはぐくむ学校 ○豊かな心と健やかな体をはぐくむ学校 ○保護者・地域から信頼される学校 ○基礎・基本を身に付け、自らすすんで問題を追究し、深く考え判断する子供 ○感性に富み、ともに認め合い、思いやりがあり、奉仕の心を行動にうつせる子供 ○心も体も健康で明るく、やり抜く心体力があり、すすんで運動に取り組む子供 ○自発性と英知を結集し、児童一人一人を大切に愛情深く関わる教師 ○社会人として、教育公務員として、組織的に学校運営に関わる教師	
前年度までの本校の現状	成果	課題	ユニバーサルデザインの視点や個に応じた支援をすることで、学習活動における教職員の組織的な取組ができた。 校庭遊びや体育館遊びを通して運動をする児童が多く運動の日常化、運動意欲向上につながることができた。	学力向上について個の課題を分析し、児童一人一人に合った指導方法を確立するために、教職員で共通理解を図る。 教職員の働き方改革を更に推進し、校務の精選、効率化を行い、活力と愛情をもって児童と向き合う時間を作る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	<p>&lt;学力の向上&gt;</p> <p>・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実</p>	・授業UDの視点から、どの教科においても授業中の学習過程を可視化する。	・毎時間、学習の流れについて授業UDの視点からどの教科においても授業中の学習過程を可視化するための提示を行っている。	100%	100%	A	学校評価教員アンケート「毎時間、学習の流れについて授業UDの視点からどの教科においても授業中の学習過程を可視化するための提示を行っている」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は毎時間、学習の流れについて、授業中の学習過程を視覚的に分かりやすくするための提示を行っている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「毎時間、学習の流れについて授業UDの視点からどの教科においても授業中の学習過程を可視化するための提示を行っている」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は毎時間、学習の流れについて、授業中の学習過程を視覚的に分かりやすくするための提示を行っている」肯定的回答95%以上	授業UDの視点からどの教科においても授業中の学習過程を可視化するための提示を行いつつ、それが保護者・地域にも分かるように示していく。
		・週に1度の朝のモジュール学習で、確実に「ドリルパーク」に取り組む。国語と算数について隔週で取り組む。	・篠小タイムにおけるドリルパークの活用率100%。	95%	88%	A	学校評価教員アンケート「小タイムにおけるドリルパークの活用率」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、授業で一人一台端末を活用し、情報活用能力を生かしている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「小タイムにおけるドリルパークの活用率」肯定的回答95%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校の教員は、授業で一人一台端末を活用し、情報活用能力を生かしている」肯定的回答80%以上	4月の東京BDの結果を基にした学習カード（個票）を活用し、児童が自分に適した学習内容のドリルパークに取り組ませる。
		放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図る。	・月2回以上の放課後補習の実施。	70%	77%	B	月2回以上の放課後補習とEDOSクの活用で実施率の向上を図る。	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、朝学習・放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図っている」肯定的回答95%以上	A	月2回以上の放課後補習とEDOSクの活用で実施率90%以上	C	学校評価保護者アンケート「本校の教員は、毎週の朝学習・放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図っている」肯定的回答60%以上	毎週火曜日の放課後補習やEDOSクの活用、朝学習における時間を活用し、基礎・基本の徹底に努める。
		・「学年×10分」の家庭学習の実施を、保護者へも周知・依頼する。	・学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を、学年×10分程度、きちんとやっていますか。」の肯定的な回答90%以上	77%	72%	B	学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を、学年×10分程度、きちんとやっていますか。」の肯定的な回答75%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の児童は、家庭学習の習慣が身に付いている」肯定的回答95%以上	B	学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を、学年×10分程度、きちんとやっていますか。」の肯定的な回答70%以上	B	学校評価保護者アンケート「「お子さんは、家庭学習（学年×10分以上）の習慣が身に付いている。」72%	学年×10分以上の家庭学習になるような取組を各学年・児童の実態に応じて実施する。
			・国の学力調査「授業時間以外の勉強時間」→6年児童1時間以上の回答割合80%以上	77%		B	国の学力調査「授業時間以外の勉強時間」→6年児童1時間以上の回答率は38.8% 30分以上1時間未満が38.8% 全校での教職員評価77%							ドリルパークの発展問題や自主学習の課題を提示することで、自発的な学習姿勢をつくる。
		・授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起させる。	・区の定着度調査→4、5年児童、30分以上の回答割合80%以上達成	88%		B	学校評価教員アンケート「授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起させる」肯定的回答75%以上			A	学校評価教員アンケート「授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起させる」肯定的回答95%以上			今後もOJTを含め校内研修を通して授業力の向上に努める
		・探究的活動の充実として総合的な学習の時間を中心に、各教科等の学習と関連させた探究的活動を年間指導計画に位置付ける。その際、様々な分類の書籍を読むよう配慮する。	・探究的な学習として読書科が関わる学習活動における成果物（音声言語を含む）を毎学期作成する。	72%	85%	B	学校評価教員アンケート「探究的な学習として読書科が関わる学習活動における成果物（音声言語を含む）を毎学期作成する。」肯定的回答85%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、本が好きな児童を育てるとともに、資料を活用して探究的に調べる活動を大切にしている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起させる」肯定的回答95%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校は、本が好きな児童を育てるとともに、資料を活用して探究的に調べる活動を大切にしている。」肯定的回答70%以上	読書科の年間計画の見直しと朝読書における探究的な学習の取組に係る内容の構築を図り、実践する。
		・読書活動の充実のために、始業前の15分間の朝読書を週2回を基本に実施する。	・「読書や読書活動を進んで行っていますか。」の肯定的な回答80%以上	73%	80%	B	学校評価児童アンケート「読書や読書活動を進んで行っていますか。」の肯定的な回答70%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、読書や読書活動を進んで行っていますか」肯定的回答95%以上	B	学校評価児童アンケート「読書や読書活動を進んで行っていますか。」の肯定的な回答80%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、読書や読書活動を進んで行っていますか」肯定的回答95%以上	読み聞かせボランティアによる読み聞かせを継続して本に対する興味を・関心をもたせる。

体力向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週1回以上の全校運動遊びの実施	・学期始めの健康振り返りカード「体を動かして遊ぶ」の肯定的回答90%以上	100%	90%	A	学校評価教員アンケート「毎週1回以上の全校運動遊びの実施」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「毎週1回以上の全校運動遊びの実施」肯定的回答95%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校は、休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている。」肯定的回答80%以上	校庭遊びの時間に該当する学年と児童は全員外遊びができるようにする。
		・学期に1回のなわ跳びweekの実施	・「体育や校庭遊びの日やクラス遊びなど、体をつかって運動していますか。」90%以上	94%	90%	A	学校評価教員アンケート「学期に1回のなわ跳びweekの実施」肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、毎学期、全校での『なわ跳びweek』を行っている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「学期に1回のなわ跳びweekの実施」肯定的回答95%以上	B	学校関係者評価アンケート「本校は、毎学期、全校での『江戸川っ子なわとびチャレンジウィーク』を行っている。」肯定的回答80%以上	体育委員やなわ跳びの得意な6年生児童に声を掛け、意識付けをさせてなわ跳び運動で手本とする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・理解教育実施。	・各学年での理解教育実施率100%。	100%	87%	A	年度内に理解教育実施率を100%にする。	B	学校関係者評価アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている」肯定的回答85%以上	A	学校関係者教員アンケート理解教育実施率95%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている。」肯定的回答70%以上	1年生でかえて教室の巡回指導員が説明をすることを続けていく。中、高学年での理解教育も巡回指導員と担任が協力して行う。
		・特別支援教室巡回指導教員と通常の学級担任との毎週の連携。特別支援教室専門員の巡回指導と通常の学級の観察記録の活用。 ・日本語指導員と担任との連携	・学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答95%以上	90%	85%	A	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、児童が自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合っていますか」肯定的回答95%以上	B	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答89%	A	学校関係者評価アンケート「本校は、児童が自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合っていますか」肯定的回答95%以上	教師が一人一人の努力や成長を認めていくことを全ての児童に行う。
		・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介	100%		B	保護者会においての紹介はできたが、地域への紹介を今後実施することで、実施率の上昇を図る。	D	エンカレッジルームについては地域への理解が浸透していない為、保護者を含め周知していく。	B	学校関係者教員アンケート「年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介」肯定的回答85%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校のエンカレッジルームや復籍交流について知っていますか。」肯定的回答95%以上	引き続き、年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム「たんぼほルーム」を紹介していく。
		・年間指導計画に基づいた副籍交流及び共同学習の実施 ・学校行事への参加の推進	・年間3回以上の共同学習の実施	82%	100%	B	年度末までの副籍交流の実施により、実施率を100%にする。			A	年度末までの副籍交流の実施率100%。			年度初めに相談してできる限り精力的に行う。
不登校・いじめ対応の充実	〇豊かな心の育成	・いつでもどこでも誰にでも挨拶ができる児童の育成	・「挨拶ができる」アンケート肯定的90%以上	87%	86%	B	学校評価児童アンケート「学校内や登下校の時に、先生やお客様、出会う人、友達と『いつでも・どこでも・だれにでも』さわやかなあいさつと返事を自分からしていますか」の肯定的回答85%以上	B	学校関係者評価アンケート「本校は、『元気な挨拶、丁寧な言葉遣いを重点に、『いつでも・どこでも・だれにでも』さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている」肯定的回答85%以上	B	学校評価児童アンケート「学校内や登下校の時に、先生やお客様、出会う人、友達と『いつでも・どこでも・だれにでも』さわやかなあいさつと返事を自分からしていますか」の肯定的回答85%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校は、「元気な挨拶、丁寧な言葉遣い」を重点に、『いつでも・どこでも・だれにでも』さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている。」肯定的回答85%以上	専科と担任は、返事ができている児童を認褒めて、全体が返事できるよう意識づける。授業中、呼名された際に返事をするを、全教員で指導していく。
	〇教育相談の強化	・スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携強化	・児童アンケート「悩みを聞いてくれますか。」90%以上	93%	92%	A	学校評価児童アンケート「先生方は、あなな悩みや相談事を聞いてくれますか」の肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「保護者会、個人面談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している」肯定的回答95%以上	A	学校評価児童アンケート「先生方は、あなな悩みや相談事を聞いてくれますか」の肯定的回答90%以上	A	学校評価保護者アンケート「本校は、保護者会、個人面談(担任、専科教員など)、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している。」肯定的回答90%以上	今後も校内でSSWの活用を早期に検討し、早い段階からつなげていく。担任と特別支援コーディネーター・管理職などとSSWが連携して対応していく。
		・いじめ対策委員会によるいじめの早期発見、情報共有、早期解決	・いじめ初期対応、未然防止により、解消率100%	100%	93%	A	・いじめ初期対応、未然防止により、早期発見、情報共有、早期解決を図っている。	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、児童の間違った行動に対しては、きちんと指導している」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「本校の教員は、児童の間違った行動に対しては、きちんと指導している」肯定的回答95%以上	B	学校評価保護者アンケート「本校の教員は、児童の間違った行動に対しては、きちんと指導している。」肯定的回答85%以上	日頃から、児童の様子をよく観察したり、児童が相談しやすい関係を作ったりし、教職員全体で情報を共有して対応に当たる。

学校(園)の 開かれた 地域社会に の実現	○学校(園)ホームページの充実等	・各学年、専科で毎月3回以上日頃の教育活動の様子をホームページにて発信する。	・「ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」月3回～4回以上更新、行事の更新を行っている。	96%	99%	A	学校評価教員アンケート「ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている」回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「学校だより・学年だより・ホームページで教育活動や児童の様子をお知らせしている」肯定的回答95%以上	A	学校評価教員アンケート「各学年、専科で毎月3回以上日頃の教育活動の様子をホームページにて発信する。」肯定的回答95%以上	A	学校評価保護者アンケート「学校だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」肯定的回答95%以上	毎月3回以上ホームページに各学年の学習や教育活動の様子を発信し、学校での様子を伝える。
	○学校(園)公開の実施・充実	・学校公開を年3回実施 ・保護者を年2回実施 ・個人面談を年2回実施 ・新一年生説明会を実施	・学校評価保護者アンケート「保護者会、個人面談(担任・専科教員など)、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している。」の肯定的回答90%	100%	97%	A	学校公開や保護者会、個人面談は1学期に1回行うことができた。年度末までにそれぞれの回数を実施する。			A	学校公開や保護者会、個人面談は年度末までにそれぞれの回数を実施することができた。	A	学校評価保護者アンケート「本校は、保護者会、個人面談(担任、専科教員など)、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している。」肯定的回答90%以上	SCやSSWについての情報を保護者や地域に発信していく。今後も学校公開・個人面談、保護者会等を通し、保護者・地域連携を図っていく。
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会・地域教育推進会を毎学期実施。 ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・学校評議員会を毎学期実施。地域教育推進会は2学期に実施。 ・年2回以上の実施。		100%	100%	A	学校評議員会、地域教育推進会を2学期に実施し、年2回以上の実施する。			A	学校評議員会、地域教育推進会年2回以上の実施。		
教育の 特色ある 展開	○働き方改革の推進「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定	・全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内。	70%	90%	B	学校評価教員アンケート「全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内」回答70%以上			B	学校評価教員アンケート「全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内」回答85%以上			連絡事項は連絡掲示板等見ることを徹底し、会議までに起案文書のポイントを主任が事前に示す。
		・会議内容の精選	・会議45分以内。	88%	100%	B	学校評価教員アンケート「会議45分以内」回答85%以上			A	学校評価教員アンケート「会議45分以内」回答95%以上			今後も会議の精選を図ることを継続していく。
	○農園活動の充実農園の活用を通して、植物栽培の体験などを充実させ、感性を育む。	・理科や生活科、総合的な学習の時間等の指導計画に沿った栽培や観察を実施する。 ・全校朝会の校長講話で地域の自然についての関心を広げる。	・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親んでいますか。」の肯定的回答90%	79%	82%	B	・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親んでいますか。」の肯定的回答79%			B	・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親んでいますか。」の肯定的回答77%	B	学校評価保護者アンケート「本校は、学校農園やバタフライガーデンなどの活用をはじめ、自然に親しみ四季の変化を感じる活動により、豊かな感性を育てている。」肯定的回答85%以上	次年度から農園がなくなるため、校内での農園に代わる場所の選定やプランターで育てられる作物の計画を立て実践していく。
	○食育・健康教育の推進	・学期はじめに生活習慣振り返りを行い、十分な睡眠をとる。 ・食育年間計画に沿って、食に関心をもたせる。 ・給食を通して食育を推進する。	・「9時までにねる。」「7時までに起きる。」の達成度80%以上達成	50%		C	「9時までに寝る」の平日3年生以下は30%、4年生以上は20%の達成率で学年が上がるにつれ達成することが難しい。「7時までに起きる」の平日3年生以上は80%達成できたが、1年生は75%、2年生は65%の達成率だった。			C	平日「9時までに就寝している」割合は、1・2年生が20%台、3・4年生が15%前後、5・6年生が6～7%程度であった。前回調査と比べ、全体的に就寝時刻は遅くなる傾向が見られた。また、起床時刻についても、全学年で「7時までに起きた」割合が60%を下回り前回より遅くなっている。			睡眠時間を十分にとることを大切にする。毎日同じ時刻に寝て起きるという睡眠のリズムも大切であることから指導を行う。
	・地場産業、郷土料理、季節の料理を使った食育の充実	・給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させている。	100%	100%	A	毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れている。今後も給食を通じた食育を行う。	A	学校関係者評価アンケート「給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させていますか」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させていますか」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させていますか」肯定的回答95%以上	地場産業の小松菜を意識させ、郷土料理、外国の料理を毎月継続し、旬のものを使うことで季節を感じる給食とする。	